

# CTI アダプタ 工事手順書

ご用意いただくもの

---

## INS64 回線(U 点接続) ・ アナログ回線の場合

RJ11 モジュラーボックス (ローゼット)	×	回線本数の 2 倍(1 回線につき 2 口)
RJ11 モジュラーケーブル (ストレート)	×	回線本数の 2 倍(1 回線につき 2 本)

## INS64 回線(ST 点接続)の場合

RJ45 モジュラーボックス (ローゼット)	×	回線本数の 2 倍(1 回線につき 2 口)
RJ45 モジュラーケーブル (ストレート)	×	回線本数の 2 倍(1 回線につき 2 本)

## INS1500 回線の場合

RJ48 モジュラーボックス (ローゼット)	×	回線本数の 2 倍(1 回線につき 2 口)
RJ48 モジュラーケーブル (ストレート)	×	回線本数の 2 倍(1 回線につき 2 本)

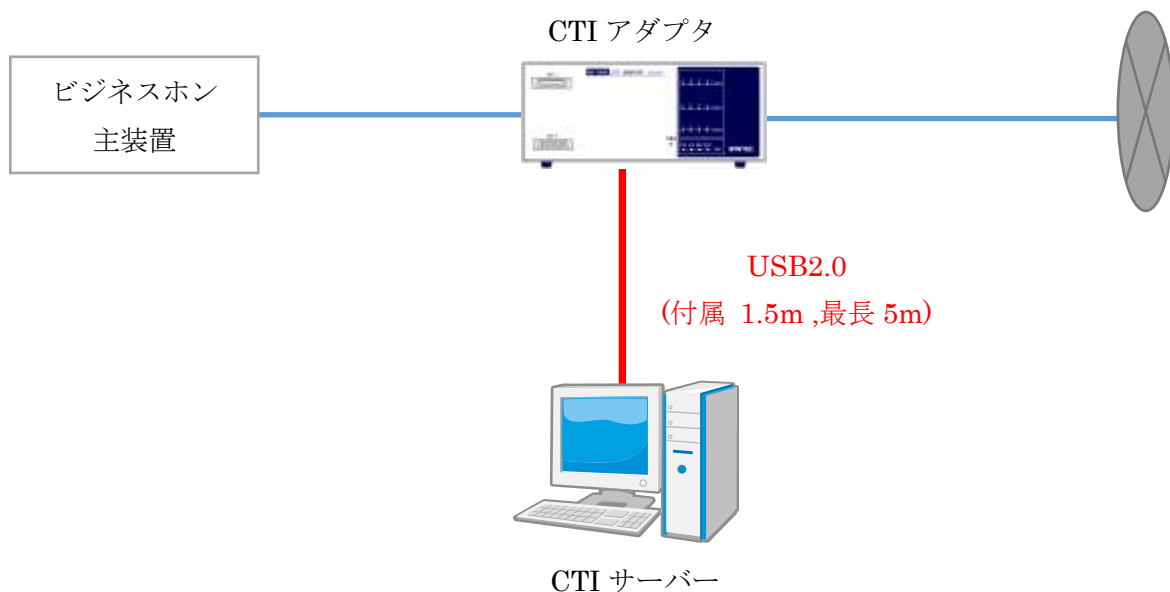
## CTI アダプタの設置位置について

---

CTI アダプタと CTI サーバー間の接続は USB2.0 での接続となります。

付属のケーブルは 1.5m です。市販の USB ケーブルをご利用いただくことで最長 5m まで延長可能です。

※CTI サーバーと電話主装置の設置場所が離れている場合、USB 側は長距離延長ができませんので、電話回線を CTI サーバー近辺まで延長いただく必要があります。



## 工事手順一覧

---

1. 現在の接続状況確認
2. モジュラーボックスの取り付け
3. 通電確認(1)
4. CTI アダプタの取り付け・ランプの確認
5. 通電確認(2)

### 1.現在の接続状況確認

---

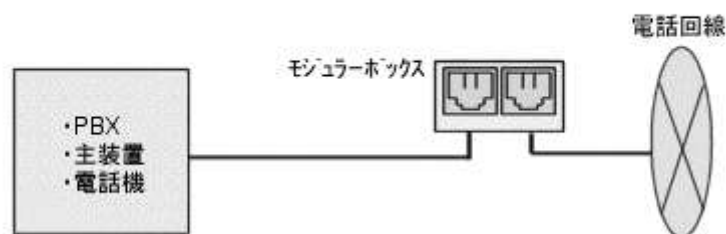
現在の電話回線・PBX の接続状況を確認します。



### 2.モジュラーボックスの取り付け

---

CTI 対応する必要のある回線すべてを分断し、その両端をモジュラーボックス（ローゼット）加工します。

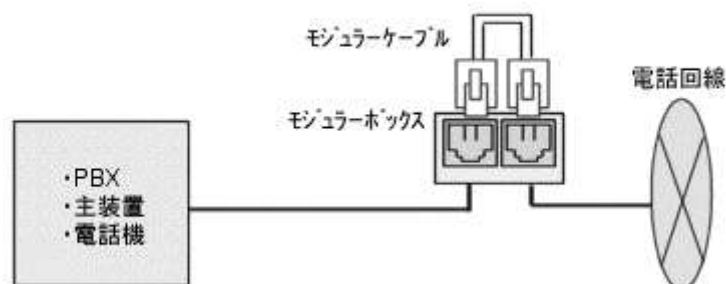


※引き込み線から PBX までオールストレートになるように結線をお願いします。

※INS1500 回線の場合 RJ48 ケーブルでの接続になります。RJ45 では接続できません。  
ご注意ください。

### 3. 通電確認(1)

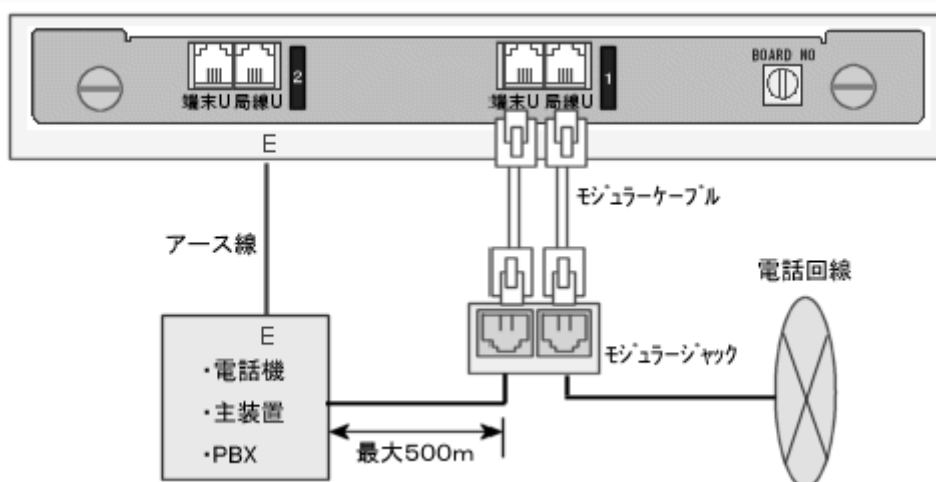
モジュラーボックスの局線側・PBX 側をストレートのモジュラーケーブルで接続してください。



この状態ですべての回線が正常に発着信・通話が行えるか、動作確認を行ってください。

### 4. CTI アダプタの取り付け・ランプの確認

[3]で取り付けしたモジュラーケーブルを取り外し、CTI アダプタを接続します。



電話回線 1 本につきモジュラーボックスの局線側から CTI アダプタの「局線」※1に 1 本、モジュラーボックスの PBX 側から CTI アダプタの「端末」※2に 1 本、それぞれストレートのモジュラーケーブルで接続を行います。

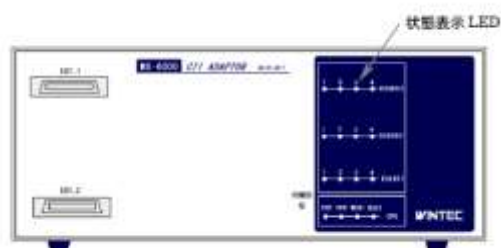
※CTI アダプタに回線ボードが複数搭載されている場合、下から順に接続してください。

(代表組の親回線が一番右下になります)

※1 INS64 U 点、アナログの場合「局線」、INS64 ST 点の場合「局線」、INS1500 の場合「局(DSU)」表記となります

※2 INS64、INS1500 の場合「端末」、アナログボードの場合「端末 A」表記となります

すべての接続が完了したら CTI アダプタの電源を投入し、状態表示 LED を確認してください。



回線を接続したすべてのランプが緑点灯になれば正常です。  
そのほかの表示となった場合、接続の再確認をお願いします。

#### INS64・アナログ回線の場合

ランプの状態	ステータス
緑点灯	正常
赤点灯	局線側 回線未接続
赤緑相互点灯	PBX 側 回線未接続・未検出 ※回線がクロスしている場合、この状態になる場合があります。 局線から PBX まですべてストレートになるように接続してください。
橙点灯・点滅	正常（回線使用中）

#### INS1500 回線の場合

LED	ランプの状態	ステータス
1	緑点灯	正常
	赤点灯	局線側 回線未接続
2	赤点灯 または 緑点灯	PBX 側 回線未接続・未検出 ※回線がクロスしている場合、この状態になる場合があります。局線から PBX まですべてストレートになるように接続してください。
	緑点灯	正常
3	青点灯	正常
4	緑点灯	正常
	橙点灯・点滅	正常（回線使用中）

## 5.通電確認(2)

CTI アダプタを取り付け、電源を投入した状態ですべての回線が正常に発着信・通話ができるか、動作確認を行ってください。

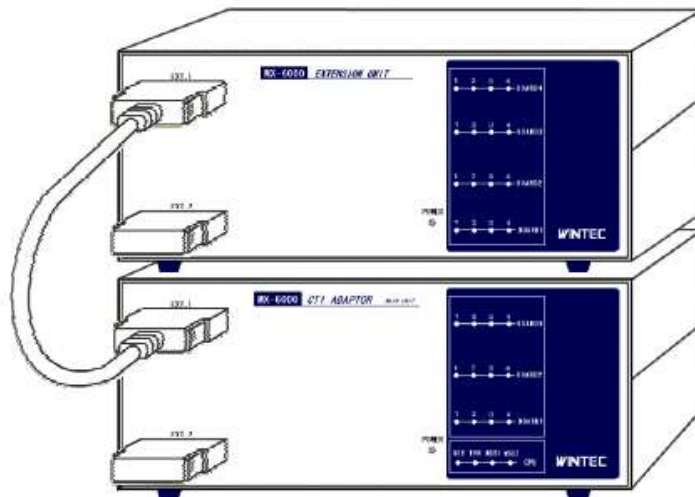
正常に発着信・通話が可能であれば取り付けは完了です。

※工事完了後、特別な理由がない限り CTI アダプタの電源は切らないでください。

## 拡張ユニットの接続

拡張ユニットがある場合、本体ユニットと拡張ユニットを接続する必要があります。

電源 OFF 状態で接続してください。



同梱のユニット間接続ケーブルを EXT1 または EXT2 のコネクタに接続してください。  
また、空いているコネクタにターミネータを接続してください。

ケーブルは EXT1、EXT2 どちらにつないでも動作します。上図のような接続の他、  
本体ユニットの EXT2、拡張ユニットの EXT1 に接続するような接続も可能です。

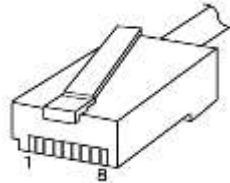
※ケーブルを強く曲げないでください。強く曲げると断線することがあります。

## INS64 回線 ST 点接続でご利用時の注意点

ST 点接続の場合、[DSU(または光ゲートウェイ)]－ [CTI アダプタ] － [ビジネスホン主装置]となるように、挿入設置を行ってください。バス接続では正常に動作しません。

INS64 ST 点接続時は次のようなピン配置で接続を行ってください。

端子番号	DSU 端子名
6	TB
5	RB
4	RA
3	TA



ひかり電話からゲートウェイ装置を経由して INS64 ST 点接続される際も上記ピン配置で接続してください。

### 【接続例】

ひかり電話用VoIPアダプターOGシリーズとの接続は下図を参照願います。

※VGシリーズも同様となります。

